# サオリとケント６－告白、そして確認

小渕茉莉絵

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
サオリとケント６一告白、そして確認

【Nコード】
N0241BA

【作者名】
小渕茉莉絵

【あらすじ】
ケントが告白されている場面を見たサオリ。
自分より、彼女とた方が、ケントは幸せなんじゃないか……？

「好きです。」
「御免ね。」

見てしまった。

ケントが、告白されるとこ。

たまたま私は、昼休みに友達と話してて、ふ、と気付くと、ケントと、クラスで一番の美少女がいなかった。

この美少女、ありきたりかもしれないけれど、裏の性格が非常に悪い。

“誰かの好きな子”とか、“誰かの彼氏”とか、そういう部類が好きなのだ。

その端正な顔で、幾度となくオトコを落としてきた。

「サオリ？」
「……」

でも。

「サオ、どうした？お前が黙ってるなんて、珍しすぎる。」
「うっさいわね。」

想像してしまったんだ。
この二人、とても見た目はいいんじゃないかって。
ごく普通の高校生な私より、幸せになれるんじゃないかって。
彼女、確かに裏の顔は悪い。
でも、ケントは変える力を持ってるから。
私が、被験者だから。

「御免ね、ケント。」
「……！！なに、サオ、お前……今、謝って……！」
「私のせいでしょ……私がいるからでしょ、断ったの。」
「……見てたの？」
「見えたの。」

ケントは急に真面目な顔になった。
本当に、美少年。

「これは、俺のわがままだ。」
「え？」
「彼女の気持ち、断った。だって、俺にはお前しかいないから。」
「……ホント？」
「ああ。だからお前は、気にしなくていいんだ。」

もう、ホンっとうに俺様なんだから。
そう思ったが、それに安どしている自分がいる。

確かめたかったんだ。私の方が、わかままだ。
そして、ケントは大人だ。
そんな私の気持ち、全部見抜いてる。

「サオ。」
「？！」

こんな道端で、赤い唇重ねたりして。

「き～さ～ま～！！！」
「うん、サオはそれでいいんだ。」
「何のほおんとしてんだ、この変態っ。馬鹿っ。信じられないっ。」
「本当に？」

そこには、ニヤリと笑ったケントの顔。

「信じてるわよっ！！！」

そんな、彼が、大好きです。

**ＰＤＦ小説ネット発足にあたって**

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能(たんのう)してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n0241ba/

サオリとケント６－告白、そして確認

2011年12月31日16時59分発行